

大学の世界展開力強化事業（平成 30 年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京藝術大学
整理番号	AA04
事 業 名	日米ゲームクリエイション共同プログラム - メディア革新時代の新しいアーティスト育成 -

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
コメント	
<p> 本プログラムは、欧米最高峰の芸術教育機関との国際共同カリキュラム構築を掲げた大学の中期目標・計画の推進に大きく貢献する可能性のあるプログラムであり、ゲームクリエイションの分野で世界でも最先端の大学と交流することにより、枠組みが順調に構築されている。交流学生数も当初計画に沿って推移しており、COIL 型教育手法の活用によく見られる派遣・受入の事前事後学習だけでなく、実質的な共同制作と交流活動としても用いる工夫がなされている。また、外部評価体制の整備がなされ、産学連携の一環として、ゲーム制作会社にメンターの派遣を依頼し、業界最前線の知見を吸収できるようにする体制を構築している点は高く評価できるとともに、本プログラムにおける学生の成果物が学外のコンペティションで入選し、1 作品については企業から商品化の打診を受ける等、社会的な成果の普及も見込まれている。 </p> <p> 一方で、単位相互認定については、実施に向けた協議は続けられているものの実施には至っていないが、制度の確立によって多くの学生がプログラム参加に興味を示し、ひいては他大学における同分野への成果普及にも繋げる芸術系大学の先導役としても、不断に推進されることが望まれる。また、事業計画にある国内他大学との連携も進捗状況が明らかになっていない。専門分野での活動実績の充実と一層のノウハウの蓄積、プログラム規模を補完する方策としても国内他大学との連携推進が強く期待される所であり、全学的な国際共同カリキュラムへの発展を通じて、他大学のモデルを目指しながら成果の普及に務め、国内の他大学との連携に期待したい。 </p> <p> 最後に、今後も本プログラム終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け積極的なプログラム展開に取り組まれることを期待する。 </p>	